

Information6

今回は狂犬病についてのお話！

犬を飼っている方は、狂犬病予防注射を年1回接種することが

国の義務としてあります。

ただ、狂犬病は犬だけの病気ではないのはご存じでしょうか…？

狂犬病は、狂犬病ウイルス（リッサウイルスと称されることも）が病原体。

狂犬病ウイルスを保有する犬、猫、コウモリを含む野生動物に噛まれたり、引っかけられたりしてできた傷口から侵入。
また稀なケースで、濃厚なウイルスによる気道粘膜感染もある。
人畜共通感染症で、全ての哺乳類は感染リスクがある！



狂犬病を発症してしまったら、**ほぼ100%死に至る**恐ろしい病気です。

そして狂犬病は**子どもの病気**とも言われています。

世界で犠牲になっている方の40%が15歳以下の子供たち。

子どもは知識が少なく危険動物に近づいてしまったり、大人との体格差から噛まれた位置で発症に違いが出てきます。

『**噛まれた部位が、頭部に近いほど発症が早い**』

脳の中樞神経系を介してウイルスが侵入していきます。



WHOによると、狂犬病はアジアでの発生が大部分を占めています。
近年アメリカ大陸の地域では、犬による狂犬病の伝播はほとんど阻止され
主にコウモリが人の狂犬病の**死亡原因**となっています。

潜伏期間は、2～3ヶ月

傷口やウイルスの量によって1週間から1年まで変動します。

<症状>

※参考 MOFFME

下痢・嘔吐などの症状が出ることは少なく、主に症状は2つに分かれる

狂騒型

徘徊や壁にぶつかるなど異常行動
興奮症状で目に付くものに噛みつき狂暴化
光や音の突然刺激の対する過剰反応
精神錯乱状態

麻痺型

後半身から前半身に麻痺が広がり、
排泄困難や飲食が摂れなくなる

犬の多くは**狂騒型**が多い



最終的には大量のよだれ、筋肉が麻痺し昏睡状態になった後に死亡…

日本は**狂犬病清浄国**として**50年以上**経過しています。

ですが2020年に、海外で動物に噛まれ国内で発症がありました。

日本の周りのアジア地域や観光の多い国でもみられます。

近年日本に狂犬病がないからと打たない方も多く感じます。

国内の狂犬病接種率は、R4年度70.9%（埼玉県は71.5%）

過去に比べると接種率は低下しています。

『備えあれば患いなし』のように毎年の予防が大切！

日本の洗浄国を保つことは、**子ども達を守るため**！

気になることがあれば、ご相談ください。

